時津町は「家読」を推進しています

たまには テレビをけして

中学年向け　２０２４年　冬号

家読とは

家族みんなで好きな本を読んで、読んだ本について話す。これが「うちどく（家読）」です。むずかしいルールはいりません。

家族みんなでルールを決めてはじめてみましょう。

家族で同じ本を読みあったり、おとうさんやおかあさんに読み聞かせをしたりと楽しい時間を過ごしましょう。

「おなじところちがうところ」

新井 洋行/作 嶽 まいこ/絵
（くもん出版）

人と人は、同じところもあれば、ちがうところもあるよね。私ととしきは、同じサッカークラブだけど、私は放送委員でとしきは図書委員。りょうちゃんとゆうちゃんはピンクが大すきで、ピンクのものをよくこうかんしている。りょうちゃんは女の子で、ゆうちゃんは男の子だけど、そんなこと、あんまり関係ないみたい。まわりの人との同じところ、ちがうところを見つけてたのしむ本。

「やかまし村の子どもたち」

アストリッド・リンドグレーン/作 イングリッド・ヴァン・ニイマン/絵 石井 登志子/訳（岩波書店）

やかまし村には、子どもが 6人。私はリーサ。ラッセとボッセというお兄ちゃんがふたりいて、中屋敷にすんでるの。北屋敷にはブリッタとアンナという姉妹が、南屋敷にはウッレという男の子がひとり。やかまし村には、三軒しか家がない。でも、おばけの話をしたり、お誕生日にはジュースパーティをしたり、毎日おもしろいことでいっぱい！

遊ぶことが大すきな作者が書いた、スウェーデンのいなかのおはなし。

「ひぐれのお客・初雪のふる日」

安房 直子/文 松村 真依子/絵（あすなろ書房）

冬のはじめの、ひぐれどき。うら通りの手芸屋さんに、まっ黒いねこが、まっ黒いマントを着て店先に立っていました。マントの裏地につける「薪ストーブの火の色」をした、赤い絹の布が欲しいというのです。お日さまの色や、石油ストーブの火の色ではないとのこと。はじめはあきれていた、お店の山中さんですが…。２つのおはなしが入った、寒い冬にぴったりの童話集。

「たまご　命が生まれるしゅんかん」

ドーリング・キンダースリー社編集部/企画・編集
水島 ぱぎい/訳（ＢＬ出版）

卵を産む生きものには、どんな動物がいると思いますか？鳥類や爬虫類、両生類や昆虫類、なんと哺乳類までいるんです。

卵には、大きい、小さいのほか、色々な色や、なんだかふしぎな形の卵もありますよ。どんな生きものが生まれてくるのかな？そうぞうしてみよう！

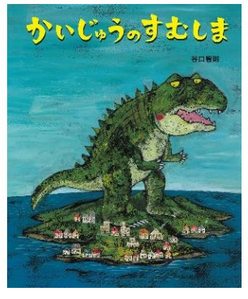
命が生まれるしゅん間を、写真で見る本。

「ぼくがぼくに変身する方法」

やませ たかゆき/作 はせがわ はっち/絵
（岩崎書店）

ぼくは小学4年生のタクミ。ある日、フリーマーケットで変身ベルトを見つけたので、ほしくなって買ってみた。いつもだったらクラスのボスにこわくて言い返せないぼくだけど、「このベルトで変身して、やっつけてやる！」なんて思って、飛び上がってみたら…本当にサンダー仮面の姿に変身できちゃうとは！

でも、この変身ってどうやってとくの？！



「かいじゅうのすむしま」

谷口 智則/作（アリス館）

ここは、かいじゅうのすむ島。かいじゅうは、島のじゅうみんたちからこわがられていたので、ひっそり身をひそめてすんでいました。じつは、大雨の時も、日でりの時も、助けてくれたのは、かいじゅうでした。けれども、じゅうみんたちは気づきません。あるとき、となりの島からミサイルが飛んできて…。やさしいかいじゅうは、どうしたでしょうか？ 家族といっしょに話し合ってみよう。

発行：時津町立時津図書館